

新潟生活

御希望の方に無料で郵送しています。

発行／新潟県県民生活課 〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1 TEL025-280-5112(直通)



■ ターンしたきっかけ

自然に関わる仕事をしたいと思っていました。東京は住むところではないなど感じ、どこかに自分に合う場所があるはずだと、転職のために情報収集をしていました。そんな時、出版社時代の同僚から、「NPO法人木と遊ぶ研究所」の求人情報を得たので、まずは現地に行ってみようと事務所を訪ねたのがきっかけです。行ってみたら、「で、いつからこれるの?」と言われて。当時は、環境教育などの自然に関わる仕事を生業としてできる場所がほとんどなかったので、まずはやってみようと思いました。

■ ターンする際に不安、心配だったこと

収入の面では非常に不安でした。また、NPOに就職するということへの不安も大きかったです。今でもNPO=ボランティアという認識で見られがちですが、当時はNPOもまだ出始めの頃でしたので、「ボランティアが仕事になるのか?」ということもよく言われました。私としては、ただやりたい仕事をできるのが、たまたまNPOだったというだけのことでした。東京では、誰かが枠組みを決めた中での仕事をしていましたが、ここでは、自分がやりたいと思うことを自由に企画して作り上げていくことができます。最初に持っていた不安は、今ではやりがいのある仕事が出来ている満足感に変わっています。

■ 役に立った相談機関やサイト

インターネットはいつも活用していました。田舎暮らしの雑誌や自然の仕事に就く本みたいなものも読んでいましたね。でも一番は口コミだったと思います。出版社時代の同僚が地方を回っていたので、生の情報を常にもらっていました。いい情報があったら自分で足を運んでみるようにしていました。



二羽雅史さん(31歳)

● NPO法人かみえちご山里ファン俱楽部

長崎生まれ。高校まで長崎で過ごし、東京の大学に進学。農業系出版社に1年、事務機施工会社に2年務めたのち、NPO法人木と遊ぶ研究所に入所。NPO法人木と遊ぶ研究所の立ち上げに携わり、現在まで同法人スタッフ。

教えて先輩!
vol.9

人間らしく生きていける 仕事と暮らしが近いからこそ、



ウェブ「niiGET」では、「教えて先輩」コーナーで取材した方のインタビュー動画をアップしています。仕事の様子や地域の風景などをぜひご覧ください!

目次

【教えて先輩!】“仕事”“暮らし”体験談

【特集】農のある暮らし

農業を始めるには

「農のある暮らし」モデル地区を設定

《申込 無料 FREE》

■ 仕事の内容

当法人で指定管理者として運営している上越市くわどり市民の森を担当しています。年に25~30のイベント企画、草刈りや散策道整備など施設の維持管理、来客対応、小中学校や町内会などの団体の受入れや、運営に関する全てのことをしています。他には、夏休みの子ども向けの川遊び、森遊びなどのイベント企画、市の無形民俗文化財に指定されている小正月行事のお手伝い、この地域の伝統的な炭焼き技術を記録・伝承するために、炭焼き窯作りから始めた炭焼き、冬には道路除雪の業務もします。とにかく、この地域に関わることで、良いと思うことは何でもやってみようという趣旨で活動しているので、説明しきれないぐらいの雑多な仕事をやっています。

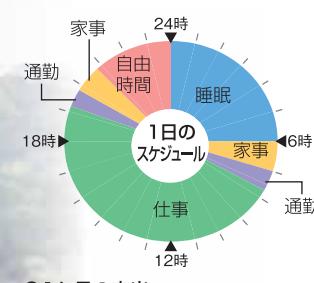
■ 地域の魅力

なんといっても“人のあたたかさ、つながり”です。ここにはかつての日本の原風景があると思います。この桑取に住む人たちの力強さといったらすごいです。全国の農村を見て回ってきましたが、このような地域はありそうでいて、他にはないと思います。かみえちごのスタッフは、20~30代の全国から集まった男女8人。環境教育、中山間地の活性化などを、地域に根ざして取り組みたいと思う若者が集まっています。桑取の人たちから見たら、自分たちは“よそ者”ではあるのですが、みなさんよそ者を受け入れて、なんでもやらてくれる温かさがあり、いつも有り難く感じています。地域の中で、もちろん上手くいかないこともありますが、その上手くいかなさも含めてこの地域が好きです。

■ 若者へのメッセージ

若いうちに動くということですね。自分の場合は、独身という身軽な立場だったからこそ、こうしてターンできたと思います。能動的に動いて、自分のやりたいことができるチャンスをつかんでください。

DATA



●1ヶ月の支出

住居費(水道代含む)	2万円
食費	2万円
光熱費	1万円
小遣い	3万円
服飾費	1.5万円

農のある暮らし

昨今、食をめぐり様々な事件事故が起こり、「安全・安心な食」「地産地消」などに対する関心がとても高まっています。また、農業は単に食料を生産する産業ではなく、「教育」「食文化」「環境」など地域社会全般に関わる重要な役割を果たしています。



食糧自給率ほぼ100%を誇る新潟県には、生産者と消費者の顔の見える関係があり、農業が身近にある豊かな暮らしがあります。農のある新潟県で、将来の暮らしを考えみませんか。



サラリーマン時代より毎日が充実して楽しいです

タカツカ農園
高塚 俊郎さん
(新潟市秋葉区)

1999年、結婚とともに利恵さんを連れ、10年間暮らした東京からUターン。2000年には父親から経営を引き継ぐ。水稻975a、果樹(柿、梨130a)野菜(130a)、加工(ジャム、餅等)の複合経営を展開。新潟県エコファーマーの認証(160号)を受ける。妻の利恵さんは、東京都の文具店に生まれる。2子の母として子育てが主だが、経理と加工部門を担当し、ジャムを開発。



インドネシアでのAPEC国際会議で発表

10代の頃は、とにかく東京に行きたくて、東京農大に進学し、卒業してからも東京で損害保険の仕事をするサラリーマンでした。仕事は面白かったし、稼げたので不満はなかったのですが、週末ごとにスキーやアウトドア生活をしているうちに、田舎暮らしもいいなと思ってきました。また、仕事で毎日残業続きのライフサイクルを経験し、子育てをする環境としては故郷新潟のほうがいいな~と考えるようになりました。彼女(妻)を説得し新潟へUターンしました。

帰ってきて農業を始めて、農家の長男のくせにトラクターにも乗ったことが無くて…1年目は見習いでしたが、驚くことに2年目に父親が「お前が全部やってみろ」と経営

全てを任せてくれました。最近では、インドネシアでAPECの国際会議に参加させられたり、年に1回は、JICAの研修の講師で東京まで出向いています。現在は、40歳に向けて経営のスタイルを模索中ですが、サラリーマン時代より毎日が充実して楽しんでいます。

仕事以外では、農業を通じて自然や文化を考えもらいたくて、学校に出張授業をしたり、異業種の人と連携し、人と自然が共生する資源循環型のコミュニティーをつくりたいと活動しています。今年は、地元の中学生の総合学習のサポートチームに参加し、プロジェクトアドベンチャーという手法を使って活動しながら、ツリーハウスを制作したりしました。

冬になればスキー場の情報を気にしながら果樹の剪定作業をしていて、コンディションのいい日は、スキー場に飛んでいます。最高ですよ。

JICAの研修生と一緒に



農業も仕事の選択肢として考えてほしいですね

(有)農園ビギン
新谷 梨恵子さん
(小千谷市)

東京生まれ。子どもの頃から農業をやりたくて、高校は理数系を選択し東京農大へ進学。そこで出会ったご主人と結婚し実家の小千谷へ。ご主人の実家が農家でなかったため、小千谷市内の農業法人に就職。大学時代からの研究テーマであったサツマイモを使ったプリンを開発。夏は農業、冬は加工、農大の後輩たちの研修受入など、多忙な毎日を送る。



3種類のサツマイモで作ったカラフルなプリン

農園ビギンの社長さんが冬に出稼ぎしなくていいようにと、焼きいも用にさつまいもを作ったんです。それをお菓子にできなかと言わせて、まんじゅうや羊羹などいろいろ試してみました。プリンが好評で、臨時職員から正職員にしてもらいました。それで、夏も仕事として農業ができるようになりました。今はスイカ、トマト、カリフラワー、メロンを作っています。コンバインにも乗れるんですよ。

土に触れる生活は子どもの頃からの夢でしたから、毎日楽しいです。楽(らく)ではないです。疲れますよ。でも充実感のある疲れなんです。どうしたらもっといいものができるか、毎日作物の顔を見ながら育てています。穫れすぎても捨てるのはイヤで、どう使おうか一生懸命考える、それが楽しいんです。

東京の実家へ帰った時、スーパーで何も買えなかったことがあります。普段、どれだけ新鮮なものを食べているか、旬の感覚というのもこちらでは実感できますよね。

大学の後輩たちの研修を受け入れています。研修以外でも悩みがあると訪ねてくれるんですよ。農業が好きな女の子も多いんですが、いざとなると迷うんですよ。私が楽しんでやっている姿を後輩たちにも子どもたちにも見せていくことで、農業を仕事の選択肢のひとつとして考えてもらいたいと願っています。

大学時代、青年海外協力隊にも参加しましたが、何もできない日本の農業についても何も知らない自分にぶつかりました。今は日本で一人前になりたいです。農家にはいろんな知恵が蓄積されていますし、大家族で暮らすのも楽しい。だから農家の長男でも自信をもって「家は農家だ」と言ってほしいですよね。

とで、佐渡の農家だからそれが伝えていけるんですよ。

それから、安全はもちろん、さらにおいしくなるようにしていきたいですね。有機に切り替えて土ができるまで3~4年かかりますから、これからですよ。

「農」は楽しいけど、現実のところ「業」は簡単にはいきません。「業」になると、効率化とか製品管理とか、経済的なことを考えなければならないから難しいですね。でも「農」の部分は、人間の持っている能力の全てを使って生涯現役で楽しめる仕事。農をやって生ける人はいないし、何があっても生きていけます。将来の食糧危機に備え、都会の人には、農家の友だちをもっている方がいいと言っていますよ(笑)

生きものの力を借りて農業をすることがトキにも人間にもいいことです

(有)斎藤農園
斎藤 真一郎さん
(佐渡市)

佐渡市青木地区で水稻(15ha)、果樹(リンゴ、柿、桃等3ha)、イチゴ0.2haを栽培する(有)斎藤農園を経営。農家に生まれ、平成8年に農協を退職し農園を設立。「トキの田んぼを守る会」の代表として減農薬、無農薬・無化学肥料の米づくりや、冬に田んぼに水を張る「ふゆみずたんぼ」を中心とした生きものと共存する農業を実践。



長男だし、もともと農業はやりたかった。農協を辞めた頃、ようやく食の安全とか言われ始めていた時期で、農薬を減らして作ってみようと本を読んで勉強しました。周りに減農薬の栽培などをやっている人はほとんどいなかったから失敗もしましたよ。りんごを全滅させたこともあったし、柿の実を全部落としたこともあります。

平成10年にトキが中国から贈られ、いずれトキが野生復帰される日が来るだろうということで、平成13年に7軒の農家で「減農薬栽培」に取り組み始めました。「ふゆみずたんぼ」など、いろいろ試してみたけど、トキ放鳥の今年、佐渡全島で環境に配慮した農業が実践され、先導した役割は果たせたかなと思っています。

生きもの調査をやってみると、以前に比べて多様化していることがわかります。生きものを大切にして生きものの力を借りて農業をすることが、トキにも人間にもいいこ



農業を始めるには ~就農までのプロセスと支援の概要~

仕事として農業をするには、独立して農業を始める、農業法人に就職するなどの方法があります。県、市町村、農業関係機関は、真剣に農業を考える人をサポートしています。



① 独立して農業を始める

独立して農業を始めるということは、事業家になるということです。作物の選定、農業技術の習得、農地の確保、施設の整備など、周到な計画と準備が必要です。



② 農業法人に就職する

農業法人とは、企業的な経営を行っている農家や組織のことで、独立するまでの技術習得の場として、あるいはサラリーマンとして農業をやりたい方にお勧めです。

株式会社や有限会社などの会社法人となっている場合と農事組合法人となっている場合があり、大規模なものから家族経営的な小規模なものまで様々です。

就職先として探すには、ハローワークや専門の情報サイトのほか、新規就農チャレンジフェア等の就農相談会を活用するのが最も効率的でしょう。

「農のあるくらし」モデル地区を設定

(社)新潟県農林公社は、「農のあるくらし」モデル地区を設定し、農業に関わりながら生活したいという方々の受け入れを行っています。

- 岩船郡関川村上野新地区
- 十日町市天水越地区
- 魚沼市福山新田地区

各地区に推進員・相談員を配置し、ファームステイや生活・農業体験などの相談に応じます。「農のあるくらし」に興味がある方は一度お試しください。

お問い合わせ先:(社)新潟県農林公社青年農業者等育成センター
TEL025-281-3480

新潟くらしのポータルサイト nii GET もご活用ください

<http://www.niiget.jp>

新潟トピックス
新潟県内の社会・経済情報を見ることができます

合同企業説明会スケジュール
県内外で開催される合同企業説明会の日程が確認できます

教えて先輩!
新潟にU・Iターンされた方々の体験を紹介します

新潟で夢にチャレンジ
無限の可能性がある新潟の魅力をさまざまな角度から紹介します

お申し込み・お問い合わせ

新潟県県民生活課
〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1
TEL025-280-5112(直通)